

「“幸せを運ぶコウノトリ”と共生するまちづくりビジョン（案）」に関するパブリックコメント（意見募集）の結果について

- ・公表した資料 “幸せを運ぶコウノトリ”と共生するまちづくりビジョン（案）
- ・意見募集期間 平成31年1月18日～平成31年2月18日
- ・意見提出人数 5人
- ・意見提出件数 10件
- ・お寄せいただいたご意見・ご提案と市の考え方

No.	提出されたご意見・ご提案	ご意見・ご提案に対する市の考え方
1	<p>耕作放棄地は拡大の一途です。田んぼは小さなダムです。一旦、耕作放棄されるとその機能が失われてしまいます。そこでビオトープ（ここでは、小さな沼地と解釈してください）として生かすという方法があります。しかし、課題があります。</p> <p>課題 a 放棄地は管理者が異なる飛び地の場合が多い為水の管理が難しい。池の水を使っている場合は「よけじ」が難しい。ある程度広さがないとコウノトリの餌場にならない。</p> <p>課題 b ビオトープは経済的な利益を生まない。（持続しない）</p> <p>課題 a については困難な場所もありますが、雲南市は棚田が多いので谷や湧水からの水を引けるなど適地も多くあります。「ビオトープの作り方講習会」を開催するなど啓発活動をすることで解決します。</p> <p>課題 b については「まこも」を育てることをお勧めします。「まこも」は水辺に群落をつくる沼沢植物なのでビオトープと相性が良く秋にはマコモタケという野菜が出来ます。これを雲南市の特産品として全国に売り出せば経済と環境の両面において解決できます。マコモタケはまだマイナーな野菜なので、この機会に雲南市が先頭切って全国発信する事でコウノトリと共に地域ブランドとなります。</p>	<p>いただいた具体的なご意見につきましては、貴重なご意見として来年度のアクションプラン策定にあたっての参考にさせていただきます。</p>
2	<p>コウノトリと共生するまちづくりのための基本方針が3点あげてあり、その一つとして「1. コウノトリが継続的に営巣できる豊かな環境づくり」とある。コウノトリが定住し継続して営巣できる環境として、生物多様性の高い豊かな自然があることは必須である。</p> <p>しかし、当市の現状ではコウノトリが定住し続けるために豊かな環境はあっても、安全な環境とは言い難い。当市で継続して定住し、営巣</p>	<p>ご提案の通り、コウノトリにとって安全な環境づくりは、重要なことと考えます。</p> <p>ビジョンについては、V. 1. (1)「学習・情報発信」において、安全な環境づくりにつながる内容に修正いたします。</p> <p>具体的なご提案内容につきましては、貴重なご意見として来年度のアクションプラン策定にあたっての参考にさせていただきます。</p>

できるためには、豊かな環境とあわせて「コウノトリが安全に生活(生息)できる環境づくり」が重要である。

その理由

①当市では全国的にもまれにみる誤射によるコウノトリの死亡事故が起こっている。

②当市で放鳥された「げんちゃん(個体番号J0176)」の死亡原因は廃棄物の不適切な処理と思われる。鳥取県の事故ではあるが、当市でも廃棄物の不法投棄はなくなっていない。

③17年12月27日付の山陰中央新報に「写真愛好家が雲南市に住む5羽のコウノトリを狙って追いまわす事態が報告され地域の協力で早急な防止対策が必要」との記事がみられる。

実際に今でも、コウノトリ観察時、写真撮影時のマナーの悪さによるコウノトリに及ぼす悪影響が度々問題視されている(例・採餌しているコウノトリに接近したため、驚いて飛びたち車に衝突しそうになった等々)

④「傷つく野外コウノトリ・人工物原因の死亡が17年度最多19羽・安全な環境づくり課題」の見出しで安全な環境づくりが提言されている(山陰中央新報19年1月8日付)

I. ビジョン策定背景の3. コウノトリと雲南市の項目の中に、「誤射後に4羽の雛が雲南市で放鳥され、市民にとってコウノトリを大切にしたい気持ちがより強くなるきっかけとなった。多くの市民からコウノトリとの共生や活用に対する期待が高まっている。」等々述べられているが、人間の力でコウノトリを守って事故のない安全で住みよい良い環境を作ろうとする姿勢は少ない。

個別の方針1.の項目の中に、「(1)学習・情報発信として、コウノトリの生態や観察マナーをはじめ、生物多様性について学習会の開催や情報発信をし、関心や知識を高めます。」と多少触れてはあるが、これではインパクトがない。ビジョン(案)は全体を通して、豊かな生態系があり生物多様性の高い自然環境を維持向上することに終始していて、コウノトリが定住するためにはそれさえあれば良いとしているような印象を受ける。

コウノトリと共生するまちづくりであれば、コウノトリが継続して定住してこそその共生であり、雲南市のブランド価値の向上ができるのではないかと考える。コウノトリの定住なしでは、「幸せを運ぶコウノトリ」と共生するまちづくりはあり得ないのではないかと。

コウノトリが継続して定住するためには「豊かな環境づくり」に加えて「安全な環境づくり」

	<p>が重要である。基本方針にあげるか、1.の豊かな環境づくりの個別方針にはっきりと「安全な環境づくり」をあげて取り組んでいくことが必要と考える。コウノトリ定住のために「安全な環境づくり」にも力を入れることで、他地域にない雲南市独自の特徴ある「コウノトリと共生するまちづくりビジョン」になるのではないかと考える。</p>	
3	<p>このテーマについて雲南市全体で共有することが前提であること。 主要道路への看板設置 「幸せを運ぶコウノトリと共生するまちへようこそ！」 「運(雲)が良ければコウノトリに会えます？」 「雲南市はこの鳥と共生しています！」 等、特に環境面のPRと雲南市民、出入りする人にPRすることから意識を高め、市民全体が幸せな気分になるように。</p>	<p>積極的な情報発信については記述しておりますので、いただいた具体的なご意見につきましては、貴重なご意見として来年度のアクションプラン策定にあたっての参考にさせていただきます。</p>
4	<p>基本、自然環境が認められた事実があり、さらに多くのコウノトリが住める環境を整備する必要がある。 そのためにはできる限り農薬使用を抑える取り組みや、今以上の休耕地を増やさない取り組み、現休耕地を荒らさない取り組みが必要で各地区において、「道路愛護デー」「雪かきボランティア」のような休耕地を整備するような活動が必要。 次に農協・建設業・その他業者などと連携し、特産品などにつなげる。(休耕地が活用できれば良い。)</p>	<p>水田農業の維持、環境に配慮した農業の推進、耕作困難な農地のビオトープ化、農作物のブランド化推進については既に記述しておりますので、いただいた具体的なご意見につきましては、貴重なご意見として来年度のアクションプラン策定にあたっての参考にさせていただきます。</p>
5	<p>写真撮影される方のマナーについての注意事項も必要か。地元の人が注意しても聞き入れない人達がいる。見守っている地元の人たちのことも考慮すべきである。一時の趣味・自己満足の世界からは脱皮して、やさしく見守ってほしい。みんなの財産である。</p>	<p>観察マナーを含めた情報発信・学習会の開催については記述しておりますが、すでに営巣が始まっていますので、ビジョン策定を待つことなく関係課及び関係機関等と連携して対応・情報発信して参ります。</p>
6	<p>雲南市にせっかく飛来している天然記念物のコウノトリを知らない人がいる。一目見たらその大きさと美しさに驚き興味も湧く。「共生」する為には、協力者が必要で、その為にはコウノトリのことをもっと知ってもらわないといけない。又、見たくても観に行けない高齢者も多く、見たくても場所が分からないという人も多い。そこで、ひとつ提案だが「今日のコウノトリ」と題して、営巣したらうんなんゆめネットで毎日5分程度放映してはどうか。日々成長するヒナの様子を見れば誰も心が温かくなり興味も湧く。近くに寄らないでとか注意点ばかり言わず①どこで営巣しているのか②見るならどこから③見るときの注意点を一緒にすれば</p>	<p>コウノトリに関する情報を積極的に発信することとしておりますので、いただいた具体的なご意見につきましては、貴重なご意見として来年度のアクションプラン策定にあたっての参考にさせていただきます。</p>

	よい。コウノトリを見て、人間も幸せをもらい、コウノトリもいい所に来て幸せ、お互いが幸せになる方法が「共生する」という事である。	
7	<p>「コウノトリ田んぼ」を作る…（看板を立ててわかりやすく）</p> <p>営巣した近くの広範囲の田んぼを所有者に協力して頂き無農薬でコウノトリ田んぼにしてみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬場も水を入れる ・カエルの産卵後も育ちやすいようにずっと水を入れる（夏まで） <p>又は、日照りでオタマジャクシが死なないように四隅に穴を掘るなど工夫して頂く。</p> <p>コウノトリ米としてブランド化して都会に売ってみる。仁多米と同じぐらいよく売れば、他にも「コウノトリ田んぼ」を作りたいと思う人が増えて、コウノトリも幸せ、人も幸せになり winwin の共生となる。→これらの情報をコウノトリ情報としてゆめネットに流す。</p>	<p>環境に配慮した農業や農産物のブランド化を推進することとしておりますので、いただいた具体的なご意見につきましては、貴重なご意見として来年度のアクションプラン策定にあたっての参考にさせていただきます。</p>
8	<p>未来の雲南市の子供達が素晴らしい所と思えるような教育が大切。この役割を担う指導者において、コウノトリを通して地元を愛する教育をしてほしい。</p>	<p>小中学校で生物多様性を学ぶことについては記述しておりますので、いただいた具体的なご意見につきましては、貴重なご意見として来年度のアクションプラン策定にあたっての参考にさせていただきます。</p>
9	<p>2月16日現在、「世界で2番目の巣塔のある学校」である市立西小の巣塔において、2羽のコウノトリが営巣を行っています。</p> <p>雲南市にコウノトリが営巣してから2年、NPO法人「コウノトリ湿地ネット」（兵庫県豊岡市）と地元の春殖地区振興協議会の協力により設置された巣塔に、西小学校児童が集めた枝をコウノトリが運んで営巣していることは、とても素晴らしく、奇跡のように思えます。</p> <p>この様な素晴らしい環境にある西小学校においては、2年前から授業の一部にコウノトリを教育材料の一つとして取り組まれ、環境教育に限らず、郷土愛の醸成、子供たちの物事に対する取り組み意識など、学校のアンケート結果からも、これらが向上している様子がうかがえます。</p> <p>さらには、ホームページの一新、兵庫県豊岡市立三江小学校とのSkypeを利用した交流など、情報発信にも積極的に取り組んでおられます。</p> <p>しかし、従来の教育活動に加えて、西小学校独自の積極的な取り組みのため、十分な備品や情報通信環境が整っていない状況にあります。</p> <p>この様に、コウノトリをとおして積極的な教育活動に取り組んでいる西小学校や、地元である春殖地区振興協議会などには、きちんと予算を措置し、その活動を支えていくべきと考えま</p>	<p>コウノトリと共生するまちづくりに関する財源確保についてはV. 3. ④で記述しておりますので、いただいた具体的なご意見につきましては、貴重なご意見として来年度のアクションプラン策定にあたっての参考にさせていただきます。</p>

	<p>す。 そして、その財源の一部となるよう「ふるさと納税」の使途に「コウノトリに関する事業」を加え、明記することを提案します。</p>	
10	<p>今後、ビジョンの策定を経てアクションプランの策定に移ると思いますが、プランにおいては、市の取り組み体制を明らかにされるよう、項目毎の担当部署を明記されることを望みます。</p>	<p>市の取り組み体制及び項目毎の担当部署については、ご意見のとおり、来年度のアクションプランでは、明記するよう考えております。</p>